

尼崎市事業所景況調査

【 2020(令和2)年4-6月期 】

業況判断DIは全産業で急激な悪化

製造業では、リーマン・ショック後の2009年を下回り、11年ぶりの低水準に

<調査結果のポイント>

- ◎ **売上高等DI** 製造業は大幅に悪化。非製造業は、特にサービス業、卸売業で大幅な悪化。
- ◎ **資金繰りDI** 全産業、製造業、小売業、サービス業で大幅な悪化。
- ◎ **従業員の過不足DI** 全産業で大幅に上昇。製造業では「過剰」に転じる。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断DI**は、▲66.0(33.6ポイント低下)で大幅に悪化。リーマン・ショック後の2009年以来の低水準となりました。来期の業況見通しDIは▲45.1で、改善となるものの、今期と「不変」「悪化」と見込む事業所が多く、厳しい状況が続く見通しです。
 産業別では、製造業は▲74.5(41.7ポイント低下)で大幅に悪化。非製造業は▲61.9(29.6ポイント低下)で、大幅に悪化。
 製造業の規模別では、大企業が▲57.9(37.9ポイント低下)、中小企業が▲77.0(42.3ポイント低下)でともに大幅に悪化。非製造業の業種別では、建設業が▲33.4(11.8ポイント低下)で悪化、卸売業が▲61.2(18.8ポイント低下)で悪化、小売業が▲63.0(12.0ポイント低下)で悪化。サービス業は▲68.5(42.5ポイント低下)で大幅に悪化しました。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高DI**は、▲66.1(34.9ポイント低下)となり、大幅に悪化。
- (3) **売上単価・客単価DI**は、▲34.9(20.5ポイント低下)で、大幅に低下。
- (4) **(原材料)仕入価格DI**は、▲2.8(26.7ポイント低下)で、大幅に低下。
- (5) **在庫水準DI**は、11.4(4.1ポイント上昇)で、上昇。
- (6) **収益DI**は、▲66.8(29.7ポイント低下)で、大幅に悪化。
- (7) **資金繰りDI**は、▲40.2(20.9ポイント低下)で、大幅に悪化。
- (8) **従業員の過不足DI**は、▲3.6(34.9ポイント上昇)となり、不足感が緩和。
- (9) **設備投資を実施した企業割合**は、15.0%(12.6ポイント低下)で、低下。来期は上昇の見通し。

注1: DIは景気動向指数「ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」)と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」)と回答した企業の比率を差し引いたものです。

注2: ()内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和2年6月16日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 45.2%
- (5) 事業主体: 尼崎市
 調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

業種	回収数	回収率(%)	配布数
全産業	452	45.2	1,000
製造業	147	55.9	263
大企業	19	46.3	41
中小企業	128	57.7	222
化学	15	39.5	38
鉄・非鉄	43	60.6	71
一般機械	36	57.1	63
電気機械	18	52.9	34
その他	35	61.4	57
非製造業	305	41.4	737
建設業	42	55.3	76
卸売業	31	50.8	61
小売業	54	32.3	167
サービス業	178	41.1	433

<本資料の問い合わせ先>

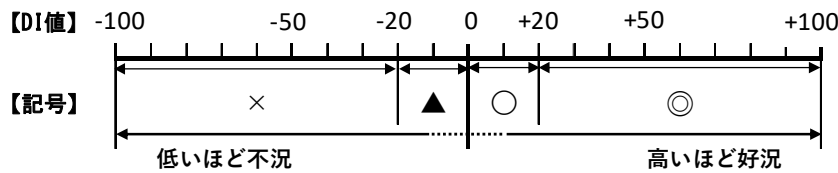
- 尼崎市 経済環境局 経済活性化課
 担当: 木田・西岡 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当: 朴・宮崎 連絡先: 06-6488-9534・9565
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

■景況調査結果の総括（令和2年4-6月期）

業種 項目	全産業	製造業			非製造業				
		全体	大企業	中小企業	全体	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	×	×	×	×	×	×	×	×	×
前回との 差 ※2	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	-66.0	-74.5	-57.9	-77.0	-61.9	-33.4	-61.2	-63.0	-68.5
	-33.6	-41.7	-37.9	-42.3	-29.6	-11.8	-18.8	-12.0	-42.5

表のよみ方

※1：「業況判断DI値」（＝「好転した割合」－「悪化した割合」）は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回調査のDI値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	—	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

■産業別の概要

【製造業】「事業所の業況判断DI」は▲74.5（41.7ポイント低下）で、大幅に悪化しました。「出荷額DI」、「収益DI」、「資金繰りDI」は大幅に悪化。「売上単価DI」は低下し、「（原材料）仕入価格DI」も低下しました。「在庫水準DI」は上昇しました。「設備投資」を実施した事業所の割合は大幅に低下しましたが、来期は上昇の見通しです。「従業員の過不足DI」は「不足」と回答する事業所が減り、大幅に上昇しました。**来期業況は、上向くものの厳しい状況が続く見通し**です。

＜規模別の業況判断DI＞【大企業】が▲57.9（37.9ポイント低下）、【中小企業】が▲77.0（42.3ポイント低下）でともに大幅に悪化。**来期業況は、ともに上向くものの厳しい状況が続く見通し**です。

＜業種別の業況判断DI＞【化学・プラ】は▲60.0（44.6ポイント低下）、【鉄・非鉄・金属】は▲86.1（50.6ポイント低下）、【一般・輸送機械】は▲65.7（33.5ポイント低下）、【電気・機械】は▲77.7（54.6ポイント低下）、【その他】は▲73.5（29.5ポイント低下）で、いずれも大幅に悪化。**来期業況は、いずれも厳しい状況が続く見通し**です。

【非製造業】「事業所の業況判断DI」は▲61.9（29.6ポイント低下）で、大幅に悪化しました。「売上高・完成工事高DI」、「収益DI」は大幅に悪化、「資金繰りDI」は悪化。「売上単価・客単価DI」、「（原材料）仕入価格DI」も大幅に低下しました。「在庫水準DI」は横ばい。「設備投資」を実施した事業所の割合は低下しましたが、来期は上昇の見通しです。「従業員の過不足DI」は大幅に上昇し、不足感が弱まりました。**来期業況は、上向くものの厳しい状況が続く見通し**です。

＜業種別の業況判断DI＞

【建設業】▲33.4（11.8ポイント低下）で、悪化。来期はやや厳しい状況が続く見通し。

【卸売業】▲61.2（18.8ポイント低下）で、悪化。来期は厳しい状況が続く見通し。

【小売業】▲63.0（12.0ポイント低下）で、悪化。来期は厳しい状況が続く見通し。

【サービス業】▲68.5（42.5ポイント低下）で大幅な悪化。来期は厳しい状況が続く見通し。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>